

2025年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2026年4月30日

北九州市立大学長 様

国際教育交流センター・准教授
清藤隆春

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	定住外国人の高齢化に伴う宗教の役割に関する基礎研究 —海外におけるベトナム人移民に対する仏教寺院の支援と比較して—		
交付額	620,000 円		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等

1. 研究の目的

本研究の目的は、高齢化する定住外国人の生活をめぐる課題について、その文化的・社会的背景を踏まえながら、宗教が果たす役割に着目して事例的に検討することである。とりわけ本研究では、外国人高齢者に対する支援の取り組みが見られるドイツにおけるベトナム仏教寺院に注目し、宗教実践が生活支援やコミュニティ形成とどのように関わっているのかを明らかにすることを主たる課題とした。

近年、定住外国人の高齢化が進む中で、当事者の具体的なニーズを把握するうえで、宗教の文化的側面に目を向けることの重要性が高まっている。申請者のこれまでの研究においても、外国人定住者と地域社会をつなぐ契機として宗教文化が一定の役割を果たしていることが指摘されてきた。本研究では、こうした問題意識を踏まえ、社会的つながりを支える場としての仏教寺院の機能に焦点を当てた。

そのうえで、ドイツで得られた知見を手がかりとし、日本におけるベトナム仏教寺院の事例を参照することで、外国人高齢者を取り巻く支援のあり方や課題について比較検討を行った。以上を通じて、本研究は、日本における外国人高齢者の生活支援を考えるための基礎的な視点を提示することを目指した。

2. 研究の方法

本研究では、定住外国人の高齢化に伴う宗教の役割を明らかにするため、日本および海外におけるベトナム仏教寺院を対象とした質的調査を実施した。

第一に、海外調査として、ドイツ・ハノーファーのベトナム仏教寺院においてフィールドワークを行い、住職および関係者に対する半構造化インタビューならびに参与観察を実施した。これにより、移民

高齢者に対する宗教的実践、生活支援、コミュニティ形成のあり方に関するデータを収集した。

第二に、国内調査として、神戸市のベトナム仏教寺院においてフィールドワークを行い、住職等へのインタビューを実施した。さらに、在日ベトナム人高齢者への聞き取り調査を行い、高齢期における寺院との関係性や生活上の支援ニーズに関するデータを収集した。

第三に、これらの調査に加え、申請者がこれまでに実施してきた諸外国におけるベトナム仏教寺院の調査データを統合し、複数地域にまたがる比較分析を行った。本研究では、単一寺院の分析にとどまらず、寺院間の越境的ネットワークの構造の把握を試みた。

分析にあたっては、質的データをもとに各事例の共通点および相違点を整理し、宗教実践と社会的支援の関係性ならびに寺院間の連関のあり方について検討した。さらに、研究成果の一部は学会において発表し、外部からの批判的検討を踏まえて分析の精緻化を行った。

3. 研究成果

本研究の成果は、以下の三点にまとめられる。

第一に、日本における調査から、ベトナム仏教寺院が高齢化する在日ベトナム人にとって、宗教的実践の場であると同時に、社会的つながりを維持する重要な拠点として機能していることが確認された。特に、ベトナム僧侶および信徒へのインタビューを通じて、高齢期において寺院が精神的支えとなるだけでなく、言語や文化を共有する場として機能していることが示唆された。

第二に、ドイツでの調査結果から、ベトナム仏教寺院は宗教活動に加えて、移民高齢者に対する生活支援やコミュニティ形成において、より組織的な役割を担っていることが確認された。これにより、日本と比較した際の支援体制の違いの一端が示され、日本における外国人高齢者支援の課題を検討するための示唆が得られた。

第三に、諸外国での既存調査に今回のドイツ調査を加えた比較分析から、海外に展開するベトナム仏教寺院は、国ごとに孤立した存在ではなく、越境的ネットワークとして機能している実態の一端が確認された。この知見は、寺院を単一のエスニック宗教施設として捉える従来の枠組みを再検討し、関係性としての宗教空間という視点の有効性を示唆するものである。

これらの成果の一部は、東京大学において開催された日米政治学会にて発表された (Hashimoto & Kiyofuji 2025)。同発表では、日本における多様な仏教寺院の実態を紹介する中で、日本における事例分析の報告を行い、国際的な学術的議論の場において研究の意義を示した。

さらに、本研究の分析をもとに、諸外国にまたがるベトナム仏教寺院のネットワークを扱った英語論文を執筆した (Kiyofuji 2026)。同論文では、僧侶の越境的移動に着目し、寺院間関係が動的に形成される実態について検討しており、本研究の国際的発信としての一つの成果である。

以上のように、本研究は、定住外国人の高齢化という社会課題に対して、宗教が果たす役割について、国際比較および越境的ネットワークの視点から検討を行い、日本社会における多文化共生および外国人高齢者支援のあり方を考えるための基礎的知見を得た。今後は、継続的な調査を通じて、これらの知見をさらに精緻化していく必要がある。